

介護福祉士の資格取得に向かうきっかけに関する研究

— 国家資格取得に対する Web 調査を通して —

大塚 和美

福山平成大学
(福祉健康学部福祉学科)

E-mail : ootsuka@heisei-u.ac.jp

【要旨】

総人口に占める 65 歳以上人口の増加の現状から、介護福祉職の人数の確保は喫緊の課題である。介護に対するネガティブなイメージが浸透し、介護業界での就労や介護福祉士の資格取得を選択しにくくしていると考えられる。職業選択の観点から考えると、介護福祉職が「将来なりたい職業」として選択肢に挙がらない現状があり、それが続いていると考えられる。介護福祉士の資格取得や就労に関する意欲は、介護福祉士を身近に感じられる「人」の影響や福祉や介護に関する「体験」の影響を強さが関係しているのではないかと考えた。

A 県老協と B 市老協に所属する介護老人福祉施設の介護福祉士 125 名を分析対象者として、現職の介護福祉士が介護福祉士国家資格を取得しようと思った時期やきっかけを明らかにすることを目的に Web アンケート調査を行った。年齢・性別ときっかけとなる項目の影響を調査し、その関連性を因子分析とコレスポネンス分析した結果、以下のことが明らかとなった。

- (1) 介護に興味・関心を抱いた時期は、[高等学校] が最も多く、[社会人になってから] [転職してから] が同率で続いた。
- (2) [体験授業] [職場体験] の経験と [介護サービスを利用している家族] [介護職員の友人・知人] の存在が、「介護に興味・関心を抱いたきっかけ」に影響を与えている。
- (3) 「介護に興味・関心を抱く際に影響を受けた人」は、[介護サービスを受けている、または受けていた祖父母] は強く影響しているが、その他の人の影響は低い。
- (4) 「介護福祉士の資格や仕事に対して持っているイメージ」が相対的に低く表れたため、現職の介護福祉士の資格・業務に対するイメージアップも重要である。

キーワード：介護福祉士、資格取得のきっかけ、介護人材確保

1. 研究の背景

令和5年版高齢社会白書¹⁾によると、2022(令和4)年10月1日現在の65歳以上人口は、3,624万人であり、高齢化率は29.0%となった。我が国の総人口は、長期の減少過程に入っている。総人口が減少する中、65歳以上の高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、2037(令和19)年に33.3%となり、国民の3人に1人が65歳以上の高齢者になると見込まれている。

総人口に占める65歳以上人口の増加の現状から、介護福祉職(介護福祉士の有資格者、無資格者を含む)の人数の確保は喫緊の課題である。介護業界唯一の国家資格である「介護福祉士」の資格取得は、約50%が実務経験ルートであり、残り約50%は養成校・高等学校・外国人材のルートを合わせた数値である。さらに、日本介護福祉士養成施設協会²⁾によると、介護福祉士養成校の入学者数の状況は、2023年度の入学者数は6,197人と2006(平成18)年度以降で最も少なくなった。また、介護福祉士養成校の数も、2015(平成27)年度の406校から2022(令和4)年度は314校へと23%も減少している。介護現場の人材不足が叫ばれている中、その介護現場に介護福祉職として学生を送る立場の養成校の殆どが定員割れしている現状にある。土田³⁾によると、「介護労働者の低賃金、労働環境の悪さ、仕事のやりがいの低さ、介護労働のイメージの悪さ」など、ネガティブなイメージが浸透し、介護業界での就労、介護福祉士の資格取得を選択しにくくしている」と考えられる。職業選択の観点から考えると、介護福祉職が「将来なりたい職業」として選択肢に挙がらない現状があり、それが続いていると考えられる。中澤⁴⁾によると、「職業を決める基準は、身近で影響を受けるものや安定しているものといえる。(中略)介護職は家族が介護職員であったり、総合学習・職業体験・ボランティア等で介護施設を訪れなければ身近で影響を受けることはほとんどないといえる」と述べている。

先行研究では、北村⁵⁾によると、「小学生講座を開講したところ、小学生の福祉に対する関心度は高かった」と述べている。馬淵^{6) 7)}によると、「中学校時代の福祉体験学習により、介護職が職業としての選択肢となり、介護職を選択するに至る可能性がある」こと、「学習を修める時期に学校現場において『適切な時期』に『適切な教育』を行うことは、学生の職業選択に何らかの影響を与えている」と述べている。

介護福祉士の資格取得や就労に関する意欲は、介護福

祉士を身近に感じられる「人」の影響や福祉や介護に関する「体験」の影響の強さが関係しているのではないかと考えた。そのような折、全国老人福祉施設協議会(以下、全国老施協)の令和5年度調査研究事業の募集テーマの中に、「④介護人材確保に向けて、介護を憧れの職業にするための方策に関する調査研究」がある事を知り、応募して、採択を得られた。

2. 研究の目的と意義

本研究は、現職の介護福祉士が介護福祉士国家資格を取得しようと思った時期やきっかけ(人や体験の影響)を示唆することを目的とする。

先行研究を調べたが、介護福祉士を憧れの職業として捉える研究は存在しなかった。また、介護福祉士の職業選択に関する研究は磯本ら(2011)や太田(2012)の研究、進路選択に関する研究は天野(2016)や黒木(2017)(2018)、二渡(2021)と少ない状況にある。本研究の意義としては、介護人材の確保に向けて、介護福祉士を憧れの職業にするために、興味・関心を抱く時期やきっかけ、働きかけ方などの提案に貢献できると考える。

3. 研究の方法

(1) 調査対象

A県介護老人福祉施設協議会(以下、A県老施協)に所属する介護老人福祉施設119施設と地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護施設22施設、B市介護老人福祉施設協議会(以下、B市老施協)に所属する介護老人福祉施設53施設の合計194施設で勤務している介護福祉士を対象とした。

(2) 調査方法

Googleフォームで作成した無記名式のWebアンケート調査とした。

(3) 調査期間

令和6(2024)年1月15日(月)から同年2月3日(土)までをQRコードの読み取り回答期間とした。

(4) 調査項目

基本属性は、「年齢」「性別」「介護福祉士養成校の卒業の有無」「介護職員としての経験年数」「介護に興味・関心を抱いた時期」である。

質問項目は、「介護に興味・関心を抱いたきっかけ」「介護に興味・関心を抱くのに影響を受けた人」「介護福祉士の資格・仕事に対するイメージ」を尋ねた。

きっかけの質問項目は、[祖父または祖母、あるいは祖父母と同居していた][自分の家族が介護サービスを利用して] [自分の家族が介護福祉士有資格者、または無資格で働いていた][自分の友人・知人が介護福祉士有資格者、または無資格で働いていた][介護に関する授業を学校で習った][介護に関する出前講義を学校で習った][介護施設の職場体験に参加した][介護施設のボランティア活動に参加した][介護に関する書籍を読んだ][介護に関するテレビ番組を見た] の 10 項目である。各質問項目に対して、「はい」か「いいえ」の 2 件法で回答を求めた。

影響を受けた人の質問項目は、[介護職員（有資格者・無資格者を含む）の父母][介護職員（有資格者・無資格者を含む）の兄弟姉妹][介護職員（有資格者・無資格者を含む）の友人・知人][介護サービスを受けている、または受けていた祖父母][介護サービスを受けている、または受けていた父母][介護サービスを受けている、または受けていた兄弟姉妹][学校の先生][出前講義の講師]、[職場体験で出会った人][ボランティア活動で出会った人] の 10 項目である。各質問項目に対して、「はい」か「いいえ」の 2 件法で回答を求めた。

介護福祉士のイメージの質問項目は、[社会的な意義の大きい資格や仕事だと思う][専門的な知識や技術を活かすことができる資格や仕事だと思う][業務内容（身体の介護や生活の支援など）にやりがいがある資格や仕事だと思う][スキルアップしていける資格や仕事だと思う][雇用不安の少ない資格や仕事だと思う][今後、成長していく資格や仕事だと思う][利用者や家族、職員との交流がやりがいにつながる資格や仕事だと思う][様々な働き方ができて、長く働くことができる資格や仕事だと思う][ワークライフバランスがとれて、家庭の事情に応じて働くことができる資格や仕事だと思う][誰でもできる仕事の多い資格や仕事だと思う] の 10 項目である。各質問項目に対して、「強くそう思う（5点）」「そう思う（4点）」「どちらとも言えない（3点）」「そう思わない（2点）」「まったくそう思わない（1点）」の 5 件法で回答を求めた。

(5) 分析方法

質問項目について、最尤法、プロマックス斜交回転に

よる探索的因子分析を行った。得られた因子について、年齢と性別と関連性を調べるために、コレスポンデンス分析を行った。因子分析とコレスポンデンス分析については、College Analysis Ver.9.5 を使用した。

(6) 倫理的配慮

全国老施協のホームページから、A 県老施協と B 市老施協の施設名と住所を調べた。施設長宛てに調査の説明文、依頼文、QR コードを載せた用紙を郵送した。そして、研究の協力に対して同意を得られた介護福祉士から回答を得た。収集したデータは、侵入対策及びウイルス防御対策を施した USB メモリーに保存した。パスワードを設定して、研究責任者以外はアクセスできないようにするなど、セキュリティ対策を講じた。

対象者には、①個人情報取得しないこと、②調査の参加は自由意思により決定されること、③ Web アンケートの回答送信をもって、調査の同意が得られたものとする、④回答送信後の協力撤回はシステム上できないが、送信するまでは協力の撤回は可能であること、④協力の撤回や回答の中止によって不利益な取り扱いを受けることはないことを説明文書に明記した。本研究は、福山平成大学研究倫理審査委員会の承認を受けた。

(7) 研究助成

全国老施協 令和 5 年度 調査研究事業「カテゴリー④ 介護人材確保に向けて、介護を憧れの職業にするための方策に関する研究」の採択を受けた。研究成果を福祉健康科学研究への投稿については、全国老施協の会長宛てに「研究成果の利用許可申請書」を提出し、許可を得た。

4. 結果

(1) 回答者の属性

回答者の基本属性に関する質問項目を表 1 に示した。対象者は、男性 51 名（40.8%）、女性 74 名（59.2%）であった。年代は、40 代 41 名（32.8%）が最も多く、次いで 30 代 34 名（27.2%）、20 代 20 名（16.0%）の順であった。介護福祉士養成校の卒業の有無は、養成校に入学していない 71 名（56.8%）が最も多く、次いで専門学校を卒業した 33 名（26.4%）、四年制大学を卒業した 11 名（8.8%）の順であった。介護職員としての勤務年数（2023 年 12 月末日時点）は、最短が 8 ヶ月、最長が 26 年 8 ヶ月であった。未記入 3 名を除く 122 名の平均勤務年数は、14 年 11 ヶ月であった。介護に興

味・関心を抱いた時期は、高等学校（1～3年生）29名（23.2%）が最も多く、次いで社会人になってから28名（22.4%）、転職してから19名（15.2%）の順であった。

表 1. 調査対象者の属性 n = 125

項目	カテゴリー	人数(年数)	割合
性別	男性	51	40.8%
	女性	74	59.2%
	計	125	
年代	20代	20	16.0%
	30代	34	27.2%
	40代	41	32.8%
	50代	14	11.2%
	60代	14	11.2%
	70代	2	1.6%
介護福祉士養成校の卒業の有無	四年制大学を卒業した	11	8.8%
	短期大学を卒業した	5	4.0%
	専門学校を卒業した	33	26.4%
	福祉系高校を卒業した	4	3.2%
	養成校に入学していない	71	56.8%
	未記入	1	0.8%
	介護職員としての勤務年数	最短	8ヶ月
最長		26年8ヶ月	
平均		14年11ヶ月	
介護に興味・関心を抱いた時期	小学校（1～3年生）	4	3.2%
	小学校（4～6年生）	8	6.4%
	中学校（1～3年生）	11	8.8%
	高等学校（1～3年生）	29	23.2%
	短期大学または専門学校（1・2年生）	7	5.6%
	四年制大学（1～4年生）	11	8.8%
	社会人になってから	28	22.4%
	転職してから	19	15.2%
	退職してから	4	3.2%
	興味・関心はない	3	2.4%
	未記入	1	0.8%

(2) 質問項目の結果

1) 介護に興味・関心を抱いたきっかけ

介護に興味・関心を抱いたきっかけに関する質問項目を表2に示した。「はい」の回答が最も多かったのは、[祖父または祖母、あるいは祖父母と同居していた]52件（41.6%）であった。次いで、[介護に関する授業を学校で習った]41件（32.8%）、[介護施設の職場体験に参加した]35件（28.0%）の順であった。

表 2. 介護に興味・関心を抱いたきっかけ n = 125

項目	カテゴリー	人数	割合
祖父母と同居	はい	52	41.6%
	いいえ	68	54.4%
	未記入	5	4.0%
サービス利用	はい	28	22.4%
	いいえ	93	74.4%
	未記入	4	3.2%
家族が介護職	はい	24	19.2%
	いいえ	97	77.6%
	未記入	4	3.2%
友人が介護職	はい	24	19.2%
	いいえ	97	77.6%
	未記入	4	3.2%
学校で習う	はい	41	32.8%
	いいえ	80	64.0%
	未記入	4	3.2%
出前講義で習う	はい	12	9.6%
	いいえ	108	86.4%
	未記入	5	4.0%
職場体験に参加	はい	35	28.0%
	いいえ	85	68.0%
	未記入	5	4.0%
ボランティアに参加	はい	29	23.2%
	いいえ	92	73.6%
	未記入	4	3.2%
書籍を読む	はい	27	21.6%
	いいえ	93	74.4%
	未記入	5	4.0%
テレビを見る	はい	32	25.6%
	いいえ	89	71.2%
	未記入	4	3.2%

2) 介護に興味・関心を抱いたのは、誰の影響が大きかったか

介護に興味・関心を抱く際に影響を受けた人に関する質問項目を表3に示した。「はい」の回答が最も多かったのは、[学校の先生]26件（20.8%）であった。次いで、[介護サービスを受けている、または受けていた祖父母]と[職場体験で出会った人]が25件（20.0%）と同数の順であった。

表 3. 介護に興味・関心を抱いたのは、誰の影響が大きかったか
n = 125

項目	カテゴリー	人数	割合
介護職員 父母	はい	20	16.0%
	いいえ	102	81.6%
	未記入	3	2.4%
介護職員 兄弟姉妹	はい	5	4.0%
	いいえ	116	92.8%
	未記入	4	3.2%
介護職員 友人・知人	はい	16	12.8%
	いいえ	105	84.0%
	未記入	4	3.2%
介護サービス 祖父母	はい	25	20.0%
	いいえ	95	76.0%
	未記入	5	4.0%
介護サービス 父母	はい	9	7.2%
	いいえ	111	88.8%
	未記入	5	4.0%
介護サービス 兄弟姉妹	はい	0	0.0%
	いいえ	121	96.8%
	未記入	4	3.2%
学校先生	はい	26	20.8%
	いいえ	94	75.2%
	未記入	5	4.0%
出前講義 講師	はい	7	5.6%
	いいえ	111	88.8%
	未記入	7	5.6%
職場体験 出会った人	はい	25	20.0%
	いいえ	95	76.0%
	未記入	5	4.0%
ボランティア 出会った人	はい	16	12.8%
	いいえ	102	81.6%
	未記入	7	5.6%

3) 介護福祉士の資格や仕事に対するイメージ

介護福祉士の資格や仕事に対するイメージに関する質問項目を表 4 に示した。平均点が最も高かったのは、「専門的な知識や技術を活かすことができる資格や仕事だと思う」の 3.75 点であった。平均点が最も低かったのは、「ワークライフバランスがとれて、家庭の事情に応じて働くことができる資格や仕事だと思う」の 2.86 点であった。

表 4. 介護福祉士の資格や仕事について、どのようなイメージを持っていますか？
n = 125

項目 平均点	強くそう 思う	そう思 う	どちら とも言 えない	そう思 わない	全く そう 思わ ない	無記 入
社会的な 意義 (3.72)	23	63	25	6	7	1
	18.4%	50.4%	20.0%	4.8%	5.6%	0.8%
知識と技 術 (3.75)	20	68	22	11	3	1
	16.0%	54.4%	17.6%	8.8%	2.4%	0.8%

業務にや りがい (3.68)	13	73	24	11	3	1
	10.4%	58.4%	19.2%	8.8%	2.4%	0.8%
スキルア ップ (3.47)	12	59	34	11	8	1
	9.6%	47.2%	27.2%	8.8%	6.4%	0.8%
雇用不安 (3.49)	18	52	32	17	5	1
	14.4%	41.6%	25.6%	13.6%	4.0%	0.8%
成長して いく (3.33)	13	46	38	17	9	2
	10.4%	36.8%	30.4%	13.6%	7.2%	1.6%
交流がや りがい (3.54)	13	62	33	11	5	1
	10.4%	49.6%	26.4%	8.8%	4.0%	0.8%
長く働け る (3.24)	10	45	39	18	11	2
	8.0%	36.0%	31.2%	14.4%	8.8%	1.6%
公私のバ ランス (2.86)	4	27	53	24	15	2
	3.2%	21.6%	42.4%	19.2%	12.0%	1.6%
誰でもで きる (2.99)	4	35	51	24	9	2
	3.2%	28.0%	40.8%	19.2%	7.2%	1.6%

(3) 因子分析の結果

1) 問 6 「介護に興味・関心を抱いたきっかけ」の因子 分析とコレスポネンス分析

第 1 因子として抽出されたのは、「介護に関する授業を学校で習った」[介護施設のボランティア活動に参加した][介護に関する出前講義を学校で習った][介護施設の職場体験に参加した]の 4 つだった。学習や活動から知識を得ていると考え、「体験から得た知識」と因子名を設定した。第 2 因子として抽出されたのは、「介護に関する書籍を読んだ」[介護に関するテレビ番組を見た]の 2 つだった。目や耳から知識を得ていると考え、「視聴覚から得た知識」と因子名を設定した。第 3 因子として抽出されたのは、「自分の家族が介護サービスを利用していた」[祖父または祖母、あるいは祖父母と同居していた][自分の友人・知人が介護福祉士有資格者、または無資格で働いていた]の 3 つだった。自分の周りにいる人から知識を得ていると考え、「人から得た知識」と因子名を設定した。

[自分の家族が介護福祉士有資格者、または無資格で働いていた]は当てはまらなかった。これら 3 つの因子を回答者の年齢と性別との関係の強弱を見るため、コレスポネンス分析にかけた。

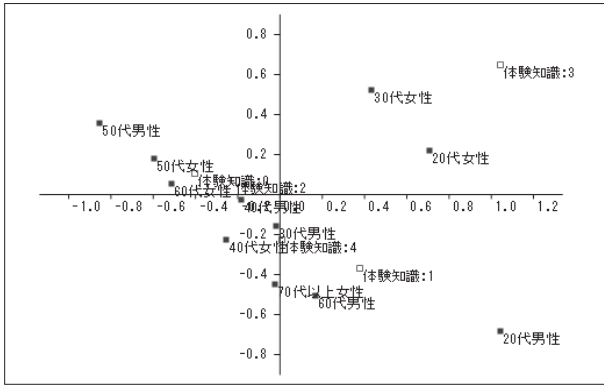


図1. 問6の第1因子「体験から得た知識」

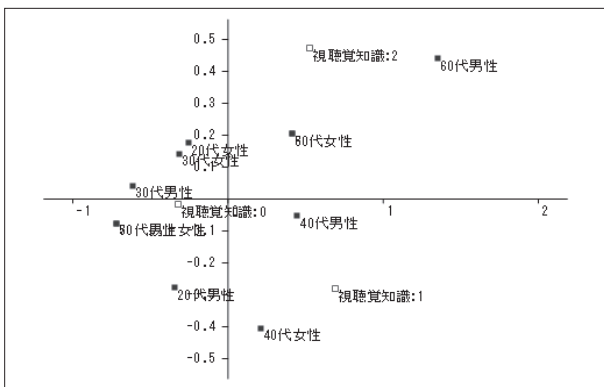


図2. 問6の第2因子「視聴覚から得た知識」

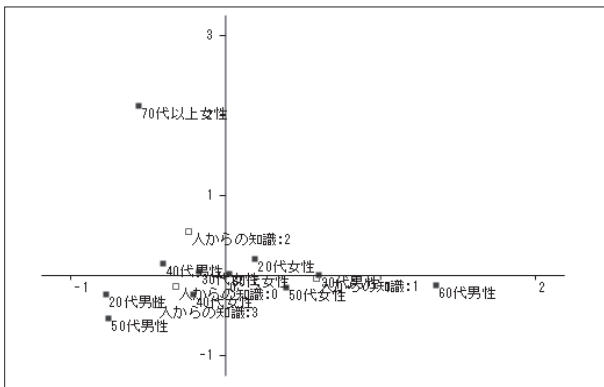


図3. 問6の第3因子「人から得た知識」

2) 問7「介護に興味・関心を抱いたのは、誰の影響が大きいか」の因子分析とコレスポンデンス分析

第1因子として抽出されたのは、[介護サービスを受けている、または受けていた祖父母]のみであった。介護サービスを利用している祖父母からの影響の強さを感じ、「祖父母」と因子名を設定した。

第2因子として抽出されたのは、[出前講義の講師][介護職員(有資格者・無資格者を含む)の父母][介護職員(有資格者・無資格者を含む)の兄弟姉妹][学校の先生][介護職員(有資格者・無資格者を含む)の

友人・知人]の5つであった。介護サービスを提供している、または介護福祉を教えている人と考え、「介護に携わる人」と因子名を設定した。

第3因子として抽出されたのは、[職場体験で出会った人][ボランティア活動で出会った人][介護サービスを受けている、または受けていた父母]の3つであった。介護サービスを提供する立場というよりも関わっている立場にいる人と考え、「介護に関わる人」と因子名を設定した。

[介護サービスを受けている、または受けていた兄弟姉妹]は、回答がすべて「いいえ」だったため、分析対象から除外した。[祖父母]因子は、抽出された因子1つで構成されているため二次元では表現できない。従って、残り2つの因子を回答者の年齢と性別との関係の強弱を見るため、コレスポンデンス分析にかけた。

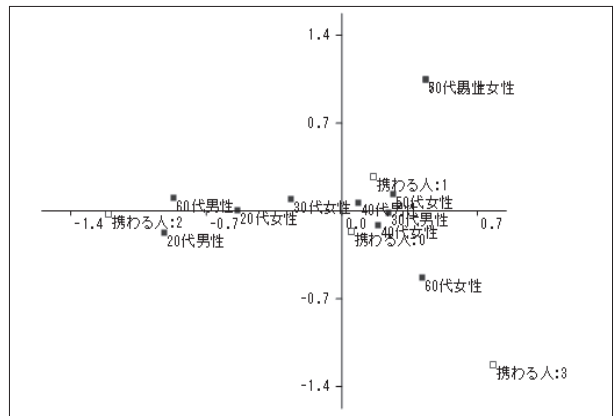


図4. 問7の第2因子「介護に携わる人」

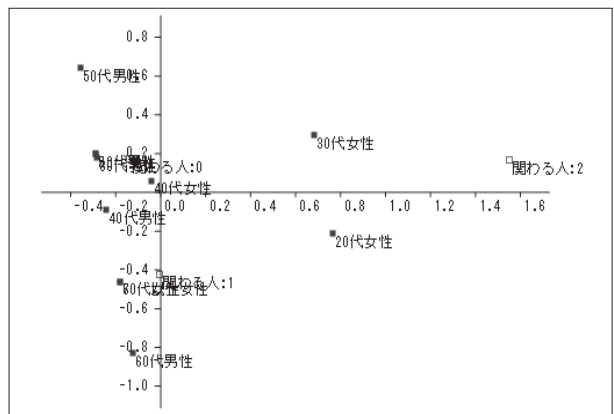


図5. 問7の第3因子「介護に関わる人」

3) 問 8 「介護福祉士の資格や仕事に対して持っているイメージ」の相関分析

それぞれの質問項目の回答と回答者の年齢と性別との関係の強弱を見るため、相関分析にかけた。

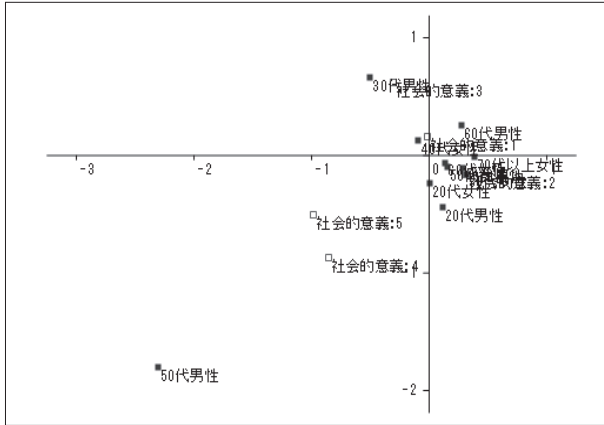


図 6. 問 8 ① [社会的な意義の大きい資格や仕事だと思う]

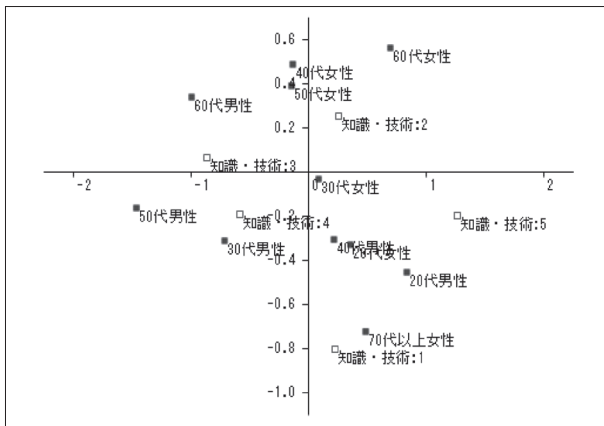


図 7. 問 8 ② [専門的な知識や技術を活かすことができる資格や仕事だと思う]

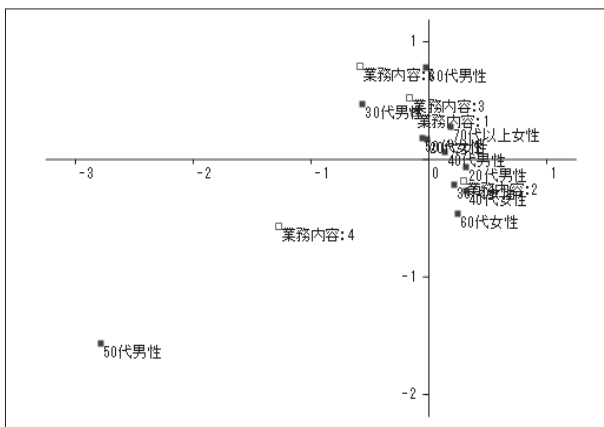


図 8. 問 8 ③ [業務内容(身体介護や生活支援など)にやりがいがある資格や仕事だと思う]

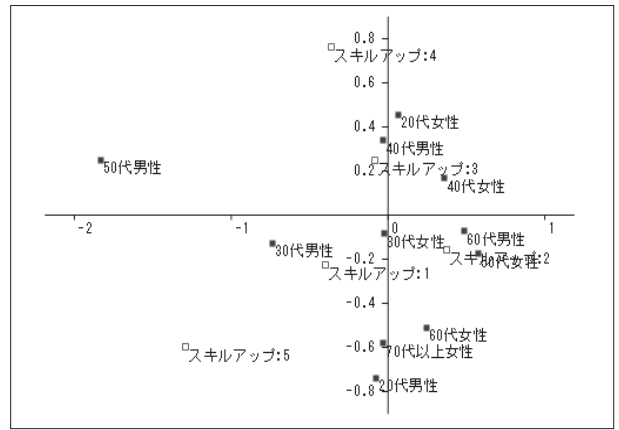


図 9. 問 8 ④ [スキルアップしていきける資格や仕事だと思う]

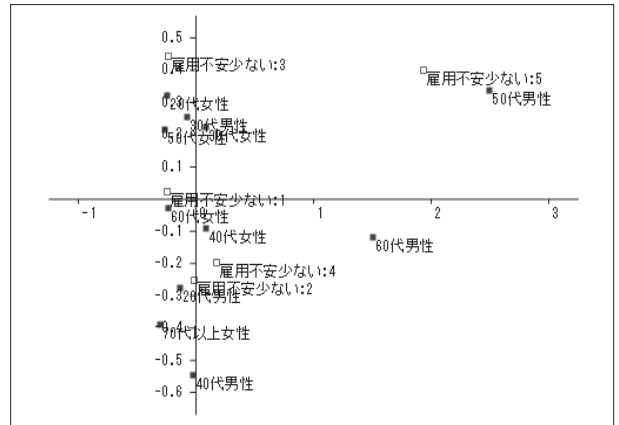


図 9. 問 8 ⑤ [雇用不安の少ない資格や仕事だと思う]

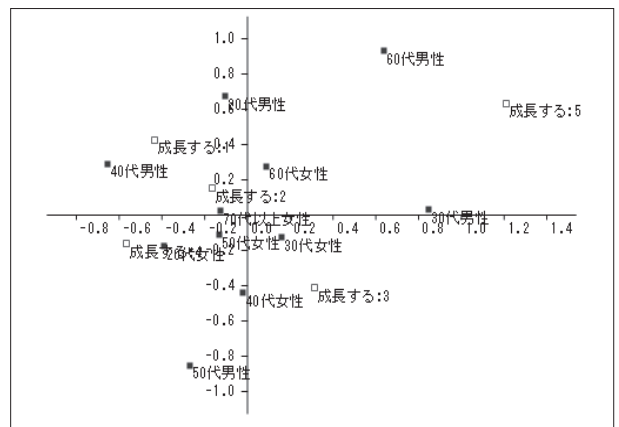


図 10. 問 8 ⑥ [今後、成長していく資格や仕事だと思う]

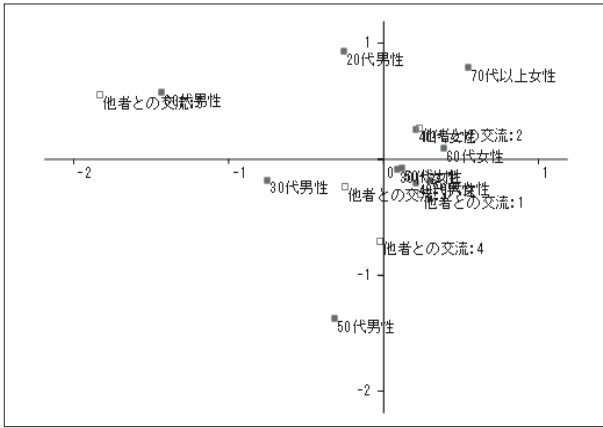


図 11. 問 8 ⑦ [利用者や家族、職員との交流がやりがいにつながる資格や仕事だと思う]

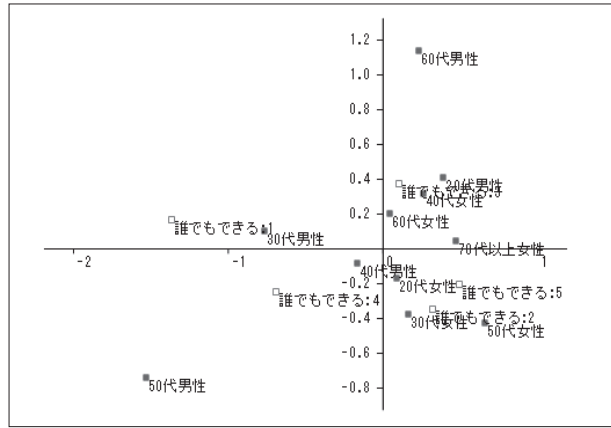


図 14. 問 8 ⑩ [誰でもできる仕事の多い資格や仕事だと思う]

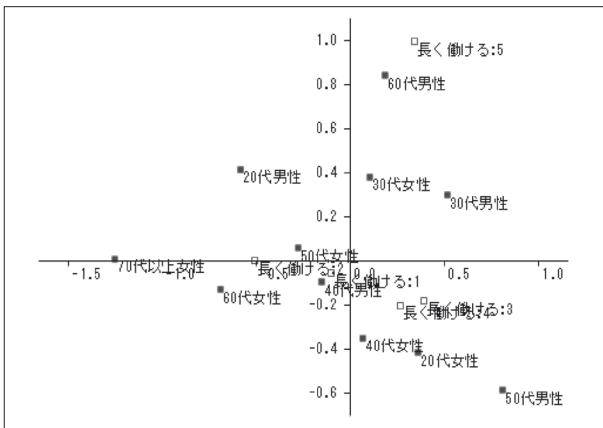


図 12. 問 8 ⑥ [様々な働き方ができて、長く働くことができる資格や仕事だと思う]

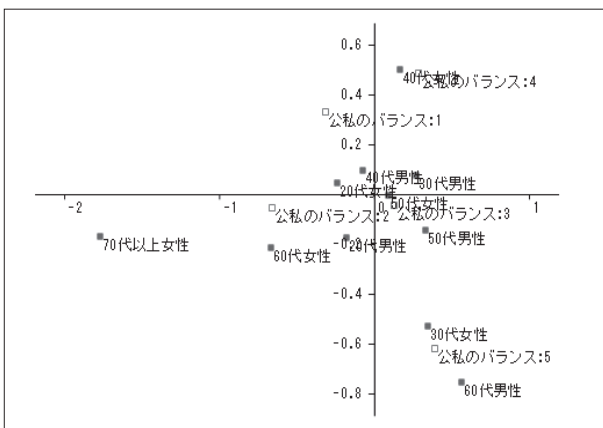


図 13. 問 8 ⑨ [ワークライフバランスがとれて、家庭の事情に応じて働くことができる資格や仕事だと思う]

5. 考察

(1) コレスポネンス分析の結果

介護に興味・関心を抱いたきっかけの第1因子「体験から得た知識」では、20～40代が影響を受けている。[介護に関する授業を学校で習った]り、[介護施設の職場体験に参加した]経験が、興味・関心を抱かせるきっかけになったと考えられる。問6の第2因子「視聴覚から得た知識」では、40～60代の主に女性が影響を受けている。実体験の機会より、[テレビ]や[本]から知識を得る機会が多いと考えられる。問6の第3因子「人から得た知識」では、主に30代と50代の男女が影響を受けている。30代は「職場体験やボランティア活動で出会った人」から、50代は「サービスを利用している父母」を含めた人の存在が、介護に興味・関心を向けたのではないかと考えられる。これらから、ボランティア活動や職場体験の方が、資格取得のきっかけ、動機付けへの関連が強く表れると考えられる。実際に、自分の目で見、肌で感じる実体験がより心に響く力が強いと思われる。

介護に興味・関心を抱く際に影響を受けた人の第1因子「祖父母」では、[介護サービスを受けている、または受けていた祖父母]のみで因子が構成されている。介護サービスが必要になった祖父母の「お世話がしたい、助けになりたい」という気持ちが強く表れたと考えられる。第2因子「介護に携わる人」では、今回の分析では具体的に誰の影響を強く受けたかは分からないが、対象者の年齢の高さや実務経験の平均年数から考えて、介護職員として働いている周りの人からの影響が考えられる。第3因子「介護に関わる人」も、今回の分析では具体的に誰の影響を強く受けたかは分からないが、対象者の年齢の高さや実務経験の平均年数から考えると、20

代と 30 代の女性は「職場体験やボランティア活動で出会った人」、60 代と 70 代以上の女性は「介護サービスを受けている、または受けていた父母」からの影響が考えられる。これらから、加齢による老化、要介護状態等になっていく「祖父母」の存在を間近で感じたり、接したりすることで、生活を支える専門職である介護福祉士の資格取得に向かうきっかけとなる影響力の大きい存在が「祖父母」であると考えられる。介護に興味・関心を抱くきっかけとして、「職場体験」や「ボランティア活動」などの「体験」や「人」の影響も大きいことが分かった。但し、今回のアンケート調査では、「職場体験で出会った人」「ボランティア活動で出会った人」という利用者とも職員や講師とも解釈できる曖昧な項目で質問をした。今後の調査研究の課題としたい。

介護福祉士の資格や仕事に対して持っているイメージのコーレスポネンズ分析の結果をまとめると、否定的なイメージを持っている内容は、「社会的意義がある」「業務内容にやりがい」「スキルアップする」「雇用不安が少ない」「利用者や職員との交流にやりがい」「ワークライフバランスがとれる」であった。否定的なイメージに寄っている内容は、「今後成長していく」「長く働くことができる」であり、意見が散らばっている内容は、「専門的な知識・技術を活かせる」「誰でもできる仕事と思う」となった。肯定的なイメージを持っている内容がなかったことから、回答者の多くは、就労してからの実務経験の中で、自分が見聞きしたことや思い描いていたことと異なる現実、例えば介護職員の慢性的な不足、改善されにくい職場環境、人間関係の難しさなど離職につながる要因に直面し、ポジティブなイメージを思い続けにくい現状が考えられる。資格取得に向けてのきっかけを多く見つけ、強い影響を受けられるようにすることも大切であると考えられる。同時に、資格取得後または就労後に介護業務を継続するためのきっかけ、現職の介護福祉士のイメージアップも介護人材の確保や介護の魅力を発信するためには重要であると思われる。

(2) 研究の限界と今後の課題

今回の研究では、分析を行ったものの、回答数を多くして追試を行うと結果が異なる可能性がある。急速な増加が今後予想される認知症利用者や介護依存度、医療依存度の高い利用者への対応が求められる。レベルの高い介護を担い、その中心的役割を果たすことが期待されているのは、国家資格を有している介護福祉士だと考える。

そのため、もし可能であるならば全国老協や介護福祉士会などに協力を依頼し、追試を行って今回の結果が再現されるのかを検証したい。

6. 結論

A 県老協と B 市老協に所属する介護老人福祉施設の介護福祉士 125 名を分析対象者として、介護福祉士国家資格を取得しようと思った時期やきっかけを示唆することを目的に Web アンケート調査を行った。きっかけとなる項目の影響を調査し、その関連性を因子分析とコーレスポネンズ分析した結果、以下のことが示唆された。

(1) 介護に興味・関心を抱いた時期は、「高等学校」が最も多く、「社会人になってから」「転職してから」が同率で続いた。

(2) 「体験授業」「職場体験」の経験と「介護サービスを利用している家族」「介護職員の友人・知人」の存在が、「介護に興味・関心を抱いたきっかけ」に影響を与えている。

(3) 「介護に興味・関心を抱く際に影響を受けた人」は、「介護サービスを受けている、または受けていた祖父母」は強く影響しているが、その他の人の影響は低い。

(4) 「介護福祉士の資格や仕事に対して持っているイメージ」が相対的に低く表れたため、現職の介護福祉士の資格・業務に対するイメージアップも重要である。

7. 謝辞

本研究に関して、Web アンケート調査に回答いただいた A 県老協と B 市老協に所属する介護老人福祉施設の介護福祉士の皆様と全国老協の事務局の皆様にお礼申し上げます。

8. 参考文献

- 1) 内閣府 (2023), 「令和 5 年版高齢社会白書」
- 2) 日本介護福祉士養成施設協会 (2023), 「令和 5 年度介護福祉士養成施設の入学定員充足状況等に関する調査の結果について」
- 3) 土田耕司 (2011), 「福祉現場における介護人材不足の背景」『川崎医療福祉大学紀要』30, p41-p45
- 4) 中澤秀一 (2015), 「介護福祉士の魅力を探る—専門実践過程で得られるもの—」『介護福祉教育』20-2, p53-p64
- 5) 北村光子 (2017), 「介護福祉のイメージアップ—

小学校講座を通じた福祉教育 -』『長崎短期大学研究紀要』

29、p33-p40

6) 馬淵敦士 (2017), 「児童・生徒期における福祉体験学習が介護職選択に与える影響に関する考察」『四天王寺大学大学院研究論集』12, p105-p121

7) 馬淵敦士 (2018), 「介護職を職業としての選択肢に押し上げる要因に関する考察—小中学校における福祉体験学習の影響に焦点を当てて—」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』31, p92-p103

8) 礪本章子, 工藤雄行, 小池妙子 (2011), 「看護師と介護福祉士の職務継続要因: 職業選択動機に関する検討」『弘前医療福祉大学紀要』2-1, p47-p54

9) 太田裕子 (2012), 「短期大学生の就職活動に対する卒業生講話の影響: 保育、福祉系の職業を対象として」『羽陽学園短期大学紀要』9-2, p111-p119

10) 黒木真吾 (2017), 「高校生の介護分野への進路選択に関する現状と課題: 高校生へのアンケート調査より」『中九州短期大学論叢』40-1, p25-p33

11) 黒木真吾 (2018), 「福祉を学ぶ高校生の進路選択に関する現状と課題: 高校生へのアンケート調査より」『中九州短期大学論叢』40-2, p35-p42

12) 二渡努 (2021), 「介護職員の職業選択要因と就労継続要因の研究 - 介護職員へのインタビュー調査から -」『東北福祉大学研究紀要』45, p161-p178

13) 宮内寿彦 (2015), 「介護福祉を学ぶ学生の修学動機支援に関する研究 (3)4 年生大学で介護福祉を学ぶ動機」『十文字学園女子大学紀要』46, p99-108

14) 渡辺敏 (2005), 「憧れの職業に学ぶ—働く人に会い、働く意味を考える総合的な学習と道徳学習—」『お茶の水女子大学附属小学校研究紀要』13, p79-p91

Study on the Reasons for Pursuing a Certified Care Worker Qualification :
Through a Web Survey on National Qualification Acquisition

Kazuyoshi Otsuka

Department of Welfare Science, Faculty of Welfare and Health Science,
Fukuyama Heisei University

E-mail : ootsuka@heisei-u.ac.jp

Abstract: The increase in the population aged 65 and over makes securing care workers urgent. Negative perceptions of caregiving hinder career choices in this field. Caregiving is not seen as a desirable profession, affecting motivation to obtain qualifications. This study surveyed 125 certified care workers in Hiroshima to understand when and why they decided to qualify. Age and gender influences were analyzed using factors and correspondence analysis. Key findings include:

1. Interest in caregiving often began in high school, followed by adulthood and job changes.
2. Trial classes, workplace experiences, and the presence of family or friends in caregiving roles influenced interest.
3. Grandparents receiving care had a significant impact, while others had less influence.
4. The image of the care worker role is low, highlighting the need to improve perceptions.

Given the current increase in the population aged 65 and over, securing the number of care workers is an urgent issue. The negative image of caregiving has permeated society, making it difficult for individuals to choose employment in the caregiving industry or to obtain a certified care worker qualification. From the perspective of career choice, caregiving is not currently seen as a desirable future profession, and this trend continues. The motivation to obtain a certified care worker qualification and to work in the caregiving field may be influenced by the presence of people who make caregiving feel familiar and by experiences related to welfare and caregiving.

Keywords: Certified Care Worker, Motivation for Qualification Acquisition, Securing Caregiving Personnel